

定例記者会見

令和8年5月29日（金）13時30分

- 1 市政の動向
- 2 主な議案等のポイント
- 3 令和8年度 第1回補正予算のポイント



1 市政の動向

■ 前回定例記者会見（令和8年2月6日）から令和8年第2回薩摩川内市議会定例会閉会（令和8年3月23日）までの動向

(1) 鹿児島県原子力防災訓練を実施

2月7日、川内原子力発電所の事故を想定した鹿児島県原子力防災訓練を実施しました。昨年に引き続き、能登半島地震を踏まえ、火災・断水・通信障害・孤立地区の発生等を想定した訓練や、地震被害により事前に計画していた避難先へ避難できない事態を想定した代替避難先への避難についての訓練などを拡充して実施したほか、前回訓練の振り返りを踏まえて、避難先での園児の引き渡しや避難先での生活を意識した炊き出しやトイレカー・水循環型シャワー等の設置の訓練を実施しました。



(2) スマイルアクションネットワーク協議会発足

2月10日、SSプラザせんだいで、薩摩川内市スマイルアクションネットワーク協議会（SANek）発足会を行いました。

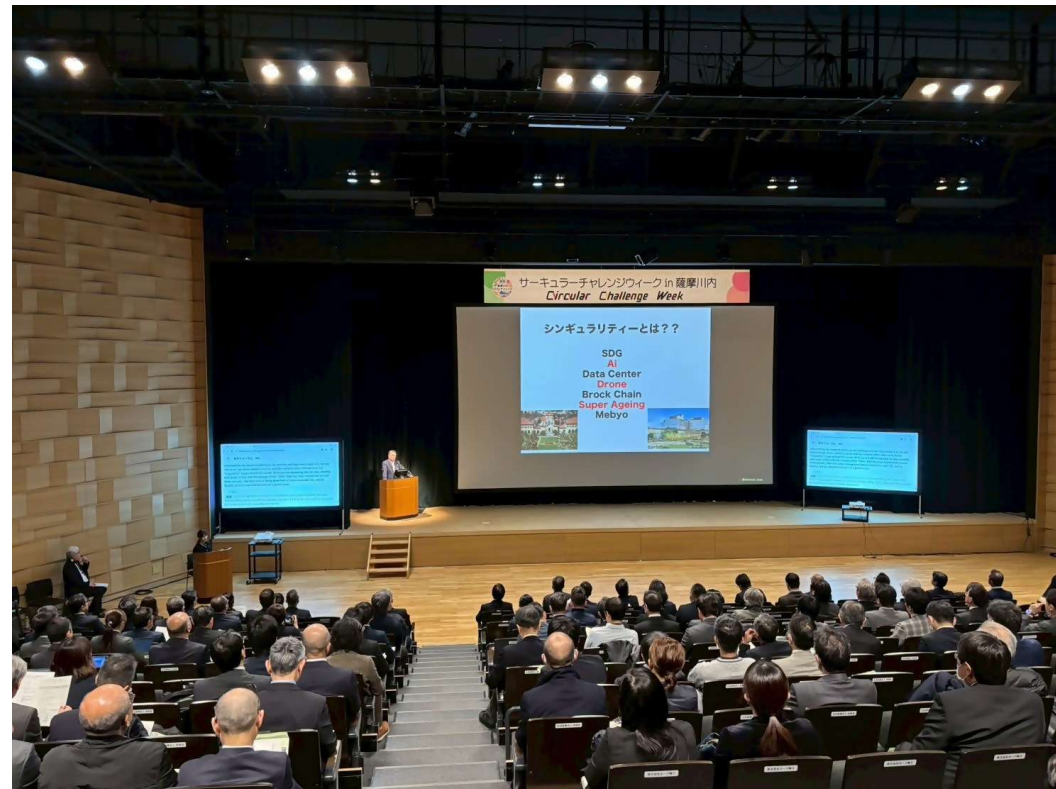
SANek（サネック）は、社会貢献活動に積極的に取り組まれている市民活動団体など様々な組織と行政の連携強化に加え、情報発信の充実や本市が抱える社会問題の解決を目的としています。



(3) 「Circular Challenge Week in 薩摩川内」を開催

2月11日から13日まで、SSプラザせんだいなどを会場として『Circular Challenge Week（サーキュラーチャレンジウィーク）in薩摩川内』を開催しました。

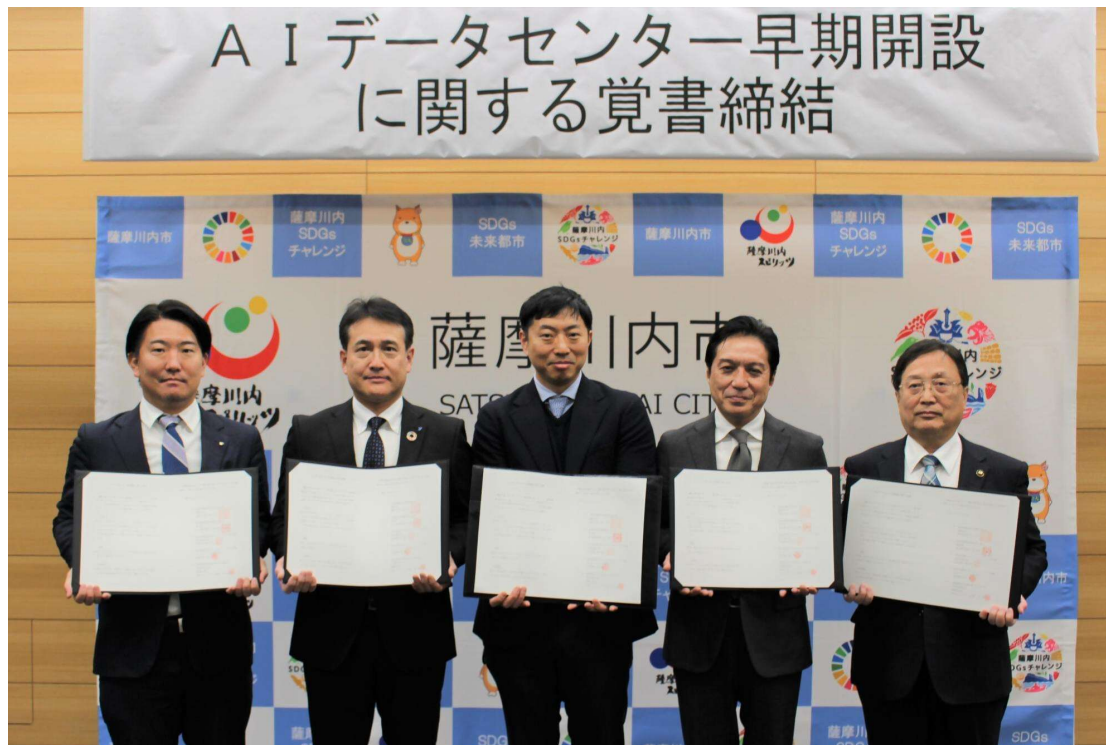
3日間を通じて、約1,000人の来場者がサーキュラーエコノミー（循環経済）に関する学びを深めた期間となりました。市民をはじめ、国内外の事業者・関係機関など、多数の参加者に本市が有するブランド価値を広く発信しました。



(4) AIデータセンター早期開設に関する覚書を締結

2月12日、鹿児島県、カインデジタルインフラストラクチャー株式会社、サーキュラーパーク九州株式会社及び九州電力株式会社と、AIデータセンター早期開設に関する覚書の締結をしました。

本覚書で、カインデジタルインフラストラクチャー株式会社が薩摩川内市内で計画するAIデータセンター群の開設に関し、サーキュラーエコノミーの理念の下、本市、鹿児島県、サーキュラーパーク



九州株式会社及び九州電力株式会社が互いに連携し、AIデータセンター群の開設が、円滑に、かつ早期に行われるように協力することを確認しました。

(5) 原子力規制委員会に対して川内原発に係る 厳正な審査・監督指導等を要望

2月14日、山中 伸介原子力規制委員会委員長と、地元自治体の首長・議長や九州電力株式会社との意見交換が行われ、川内原子力発電所の厳正な審査・監督指導等について以下のとおり要望しました。

要望事項

- ・ 川内原子力発電所の乾式貯蔵施設の設置に関する原子炉設置変更許可申請については、組織理念に基づき、審査体制の一層の強化と厳正な審査に努めていただくとともに、高い独立性と透明性の下で対応していただきたい。
- ・ 川内原子力発電所について、引き続き厳正な審査を行うとともに、電気事業者に対する適切な監督・指導を徹底していただきたい。
- ・ 審査内容やその結果について、より分かりやすく、丁寧に市民へ説明していただきたい。

いっさいがっさい

(6) “生彩楽祭” 生涯学習フェスティバル 男女共同参画フェア・市民活動フェスタを初の同日開催

2月15日、サンアリーナせんだいで、生涯学習フェスティバルを男女共同参画フェア・市民活動フェスタと同時開催しました。

「“生彩楽祭” 生きてるすべての瞬間が宝もの～まなび×つながり＝明日がもっと楽しくなる！」をテーマに、今年には宮下純一氏によるトークショーの他、各地区コミュニティ協議会によるブランド市や、フリーマーケット、作品の展示などを行いました。また、当日は、北朝鮮による拉致問題をテーマとして作文コンクールで最優秀賞を受賞した羽島奈穂さんたちによる署名活動も行いました。



(7) 災害派遣用トイレカー運用開始

3月16日、向田公園で災害派遣用トイレカーのお披露目式を行いました。これは令和6年に発生した能登半島地震の教訓をもとに、災害時において衛生的で安全なトイレ環境を確保し、避難生活環境の向上を図ることを目的に導入しました。

誰もが利用しやすいようバリアフリー・ユニバーサルデザインの機能（手すり、広さ、オストメイト設備、おむつ台）を備えた多目的トイレの他、男性用小便器、男性用・女性用便器が2つずつ設備されています。

本市での災害対応はもちろんのこと、他自治体が被災した際の派遣にも積極的に活用し、広域的な支え合いに貢献してまいります。



(8) つんのハッピーランドの完成

3月19日、向田公園で、つんのハッピーランドの完成式典を実施しました。

「つんのハッピーランド」には、障がいの有無に関わらず、誰もが安心して遊べるインクルーシブ遊具を設置し、屋根付きのベンチやスロープ、手すり等も整備しており、遊び始めに訪れた市内の幼稚園児たちも元気に駆け回っていました。



■ 令和8年第2回薩摩川内市議会定例会閉会后（令和8年3月24日～）の動向

(9) 飯母橋開通

3月29日、一級河川樋脇川に架かる飯母橋の架け替え事業竣工に伴う「開通式」が、平佐東地区コミュニティ協議会の主催により行われました。この飯母橋は、令和5年度に工事着手して以来、通行止めとなっておりましたが、約2年半をかけて整備を進め完成しました。本事業の完成により、県道市比野東郷線と県道川内祁答院線への道路網が強化され、緊急車両等の移動時間の短縮などが図られます。



(10) 組織・機構の見直し

4月1日、少子化対策・子育て支援の強化に加え、組織・業務の効率化と市役所サービスの充実を目的とした組織・機構の見直しを行いました。

妊娠期から子育て期までの相談を担う総合窓口の機能強化、女性や家庭、子どもに関する相談・支援体制の充実および申請や相談のワンストップ化を拡充するため「福祉こども部」と「健康保険部」を新設しました。

また、まちづくりを推進するために業務の移管を行うとともに、産業政策の総合調整などを目的として「産業戦略監」を新たに設置しました。



(11) (仮称) 甌島通信学習センター連携校を募集開始

4月1日、「(仮称) 甌島通信学習センター」において、市と連携して授業配信を行う通信制課程を有する高等学校・大学（連携校）の募集を開始しました。

甌島における中学校卒業後の島立ち等による人口の流出抑制を図るとともに、島内での学び直しの機会と島外からの関係人口の創出や移住促進を通じて、甌島の地域活性化及び移住人口の増加につなげるために、甌島に通信教育の拠点「(仮称) 甌島通信学習センター」を里市民サービスセンター2階に設置し、多様な学習機会の提供、島内の教育環境の充実を図ります。



(12) 電話リレーサービス登録開始

4月1日から電話リレーサービスが無料で利用できるようになる登録が始まりました。

これは、聴覚、言語機能又は音声機能に障害があり、音声言語により意思疎通を図ることに支障がある方の情報アクセシビリティ向上のため、電話リレーサービスの地域登録制度を利用して、その利用料を市が負担するものです。

また、現在個人で電話リレーサービスを利用している方も、市に登録申請していただくことで、利用料を公費負担に切り替えて無料で利用できるようになります。



(13) 川内港唐浜ふ頭へのコンテナ船初入港

4月10日、川内港唐浜ふ頭にコンテナ船が初入港したことを歓迎するとともに、今後の安全な航海と荷役を祈念するセレモニーを開催しました。

市議会議長、市貿易振興協会会長等も出席し、記念品の贈呈も行い、官民一体となって初入港を祝いました。

唐浜ふ頭へコンテナ船が入港したのは初となり、それと同時に2年半ぶりに小口混載便輸出サービスも再開されました。

また25日には、国土交通省九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所及び鹿児島県共催の「川内港唐浜地区国際物流ターミナル供用式」が開催されました。

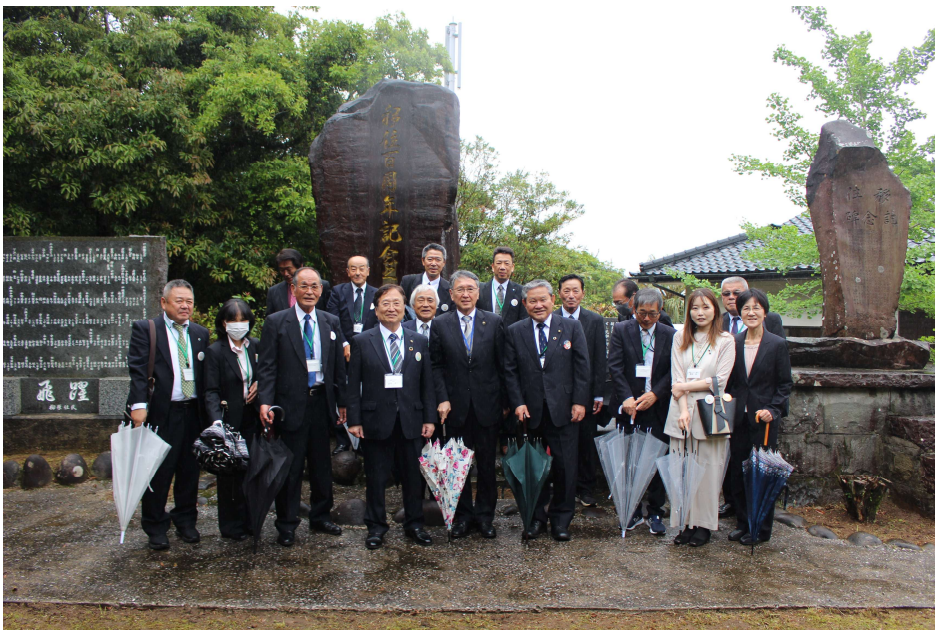


(14) 甕島から柳原（西之表市）移住140周年記念交流事業

4月18日、19日、甕島から西之表市 柳原地域への移住から140年の節目を迎え、「柳原移住140周年記念祭」が西之表市で開催されました。

この記念祭を機に、両地域の相互にわたる歴史的な結びつきや文化的交流の歩みを改めて共有し、今後の交流の深化につながりました。

甕島から参加された方々は心温まる歓迎を受け、140年前の先人たちの苦労やこれまでの交流に思いを馳せました。



(15) 平佐リバーパークの維持管理協定調印式 オープニングセレモニー

4月24日、川内川天辰地区河川敷の「平佐リバーパーク」が、令和8年3月末に完成したことから、平佐西地区コミュニティ協議会と維持管理協定の調印を行いました。

また、28日、平佐西かわまちづくり協議会の主催により「平佐リバーパーク オープニングセレモニー」が開催されました。

平佐リバーパークは、土のグラウンドや芝生の広場が整備され、どなたでも自由に利用できます。



(16) 「藺牟田麓の田の神戻し」 県無形民俗文化財に指定

5月1日、「藺牟田麓の田の神戻し」が県無形民俗文化財に指定にされました。

この藺牟田地区の「田の神戻し」は宿替えの行事になります。

例年、4月上旬に行われ、地元では、田の神は子孫繁栄、無病息災、五穀豊穡の神として信仰されてきました。



(17) 職員採用（カムバック採用）辞令交付式

5月1日、本市では初となる「カムバック採用」による職員への辞令交付式を実施しました。

カムバック採用制度とは、本市を退職した元職員を対象とし、優秀な人材の「再獲得」と、外部で培われた経験・スキルを持つ「即戦力」の確保を目的として導入された新しい採用制度になります。



(18) 甌ミュージアム開館1周年記念イベント

5月4日、甌ミュージアムの開館から1周年を記念し、甌ミュージアム
の名誉館長で国立科学博物館館長の真鍋真先生による講演会や、標本
レプリカ作りやボルダリング等の体験イベントなど記念イベントを開
催しました。



(19) 「甌島片野浦のカノコユリ群落」(通称：みっちり草原) 国天然記念物指定記念講演会

5月17日、「甌島片野浦のカノコユリ群落」が国の天然記念物に指定されたことを記念し、子岳地区コミュニティセンターにて講演会を開催しました。

講演会では、文化庁文化財調査員の寺田仁志氏や鹿児島県教育庁文化財課の森幸一郎氏に講演いただいたほか、甌島ツーリズム推進協議会から今後の保存活用事業の計画等について報告がありました。

また、講演に先立ち、今回の国指定に当たり調査研究や保存などに特に大きな功績のあった個人・団体に対し、感謝状を贈呈しました。



(20) 本市初ネーミングライツ契約締結式

5月18日、川内駅コンベンションセンター多目的ホールについて、
エヌダブリュイーゼロキュウ
合同会社NWE-09インベストメントとネーミングライツ契約を締結しました。市とネーミングライツパートナーは、互いに連携・協力し、施設の魅力向上に取り組んでまいります。

愛称 ヴィーナ・エナジーホール※

※現行名称：薩摩川内市川内駅コンベンションセンター多目的ホール
契約期間（ネーミングライツによる愛称の使用期間）
令和8年7月1日から令和14年3月31日（5年9カ月）



2 主な議案等のポイント

議 案 合計 15 件

- | | | |
|---|-----------------|------|
| 1 | 一般議案 | 10 件 |
| 2 | 令和 8 年度補正予算関係議案 | 5 件 |

報 告 合計 13 件

- | | | |
|---|------------------------|------|
| 1 | 専決処分の承認 | 2 件 |
| 2 | 専決処分の報告 | 1 件 |
| 3 | 継続費及び繰越明許費に係る
繰越計算書 | 10 件 |

議案第102号

薩摩川内市入来麓交流館条例の一部を改正する条例の制定について

薩摩川内市入来麓交流館について、施設の設置目的を効果的に達成するため、教育委員会事務局から市長事務局へ移管するほか、その管理を指定管理者へ行わせるため、所要の規定の整備を図ろうとするもの



議案第105号

薩摩川内市工業等開発促進条例等の一部を改正する条例の制定 について

企業立地に関する薩摩川内市工業等開発促進条例、薩摩川内市入来工業団地利活用促進条例及び薩摩川内市企業立地支援条例について、本市の支援制度の優位性を確保し、企業立地の促進を通じた地域経済の活性化及び税収基盤の確保による持続的な市政運営を図るほか、所要の規定の整備を図ろうとするもの

<主な改正（案）の概要>

1 薩摩川内市工業等開発促進条例

- ・ 不均一課税が適用となる対象施設の1年目の税率を軽減（0.14%→0.00%）
- ・ 新設の場合の4年目、5年目の課税免除の上限額（1億円）の設定

2 薩摩川内市入来工業団地利活用促進条例

- ・ 奨励措置対象事業者の事業休止・廃止に伴う指定取消年数の変更（15年→10年）
- ・ 課税免除上限額（1億円）の設定
- ・ 課税免除期間の変更（10年→5年）

3 薩摩川内市企業立地支援条例

- ・ 課税免除上限額（1億円）の設定

○ 一般会計

- ・ 補正額 3億5,794万4千円
- ・ 補正後の予算額

602億6,794万4千円

(前年度同期比 1.36%増)

特定離島ふるさとおこし推進事業

県の補助内示に伴い、特定離島ふるさとおこし推進事業を補正予算計上しました。

＜一般会計＞	＜事業費＞
1 養護老人ホーム厨房機器整備事業	799万円
2 鹿島浄化センター整備事業	4,169万円
3 消防団資機材整備事業	7,471万円 ※
4 ウミネコ留学制度事業	273万円 ※
5 トンボロ芸術村事業	270万円 ※
6 甌ミュージアム事業（展示施設整備）	418万円 ※
7 甌ミュージアム事業（調査、普及・啓発）	1,045万円 ※
8 給食センター施設設備整備事業	1,142万円 ※

※ 事業費の全額または一部を既に当初予算計上済み

事業費	合計1億5,587万円
うち県補助金	合計1億2,108万円

地域振興推進事業

県の補助内示に伴い、地域振興推進事業を補正予算計上しました。

	＜事業費＞
1 川内・甕島水産物流通拡大整備事業	2,368万円 ※
2 「薩摩川内ごちそうさま旅」造成事業	800万円

※ 事業費は既に当初予算計上済み

<u>事業費</u>	<u>合計</u>	<u>3,168万円</u>
<u>うち県補助金</u>	<u>合計</u>	<u>1,337万円</u>

(1) 保育所等整備事業【新規】

保育所等の計画的な整備を支援することで、こどもを安心して育てることができる体制の整備を促進するため、保育園・地域子育て支援センターに係る施設を一体的に修繕し整備します。

- 保育園及び地域子育て支援センター（各1施設）

＜事業費＞ 5,947万3千円

事項名：児童福祉施設整備費（担当課：子育て支援課）

(2) 小児夜間救急医療体制運営事業【追加計上】

小児科夜間診療において、少子化の進行により患者数が減少している一方で、地域の小児夜間救急医療体制を維持することは重要であり、今後においても安心して子育てができる環境を確保するため、支援を行います。

<事業費> 1,908万1千円

事項名：地域医療対策費（担当課：保健政策課）

(3) 川内港背後地整備調査事業【追加計上】

データセンター、資源循環施設、物流施設等の立地が検討されている川内港背後地において、スピーディーな事業展開に呼応するため、必要な調査等に係る業務を実施します。

- 川内港背後地測量調査業務委託
- 流域下流水路調査業務委託
- 川内港背後地地質調査業務委託
- 川内川右岸既設送水管水張試験業務委託

<事業費> 6,900万円

事項名：企業立地事業費（担当課：新産業創造室）

(4) 市営住宅共益費負担金支払事業【新規】

市営住宅の共益費における、市が負担すべき共益費負担金について、平成30年度以降の未払分を支払います。

<事業費> 2,607万6千円

事項名：住宅管理費（担当課：建築住宅課）

(5) 消防団設備整備事業【新規】

消防団活動時における夜間等の視認性向上及び猛暑下での熱中症予防を図るため、消防団員へ安全装備品を配備します。

- 消防団員用高視認性冷却衣 210着



<事業費> 159万6千円

事項名：非常備消防一般管理費（担当課：消防総務課）

質疑応答

- 議案及び補正予算
- その他

質疑応答

〈議案及び補正予算〉

質疑応答

<その他>

6月議会定例記者会見へのご参加

ありがとうございました。

配布資料にあります、薩摩川内市取材情報
6月～9月(行事・イベント)につきまして
も取材等、よろしく申し上げます。